

第3回定例会

町長より行政報告がなされました。
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

町長行政報告 (要旨)

□農作物の生育状況について

蒔き付けの遅れや生育の遅れが見られましたが、夏場の成長期に気温、降水量に恵まれて平年並みに回復し、主力作物の秋まき小麦は新品種「きたほなみ」に全量切り替わって2年目、穂発芽の発生もなく、収穫量は反当り乾麦粗原で61.8キロ(10.3俵)、調整後の販売見込み量は52.4キロ(8.7俵)の平年作となり、全量が1等麦となるよう調整を行っています。

カボチャはほ場間での差はありますが平年並みの収穫量で、基幹作物のピーンについては、作付けの遅れたほ場もありましたが、生育は順調に回復傾向となっております。

飼料作物の牧草は、1番草の収穫作業が遅れたものの平年並み、2番草も品質、収量ともに平年並みとなる見込み

で、デントコーンにおいては、収穫期を迎え生育は順調との報告を受けています。

□漁業について

7月1日からの北海シマエビ漁は漁獲量が少なく心配されたものの、計画の23.7トンをはほぼ達成し8月11日終了しました。

ホタテ採苗事業は、特にサロマ湖での付着が過去5年間で最も多く、健苗稚貝が確保されたとの報告であります。

外海ホタテ漁業は、6月から本操業に入っており9850トンの計画を達成できる見込みですが、価格はキロ単価108円で計画しています。が、円高等による輸出環境の悪化が懸念されます。

養殖ホタテ漁業は、貝が小さいため、計画量を下回る予想となっております。

マス漁業は、本年は不漁年にあたり、幸い価格は良いものの前年より漁獲高は低迷予測となっております。

サケ定置網漁業については9月4日からの操業で、大定置1ヶ統を敷設済みで今後の漁獲に期待しているところであります。

□公共事業の執行状況について

事業件数が49件で、事業費総額5億2400万円を予定、8月末現在発注件数44件、契約金額は4億5500万円、発注率は90%であります。

□佐呂間厚生病院の平成23年度運営結果について

厚生連関係者と佐呂間クリニック事務長が来庁し、無床診療所となって初の運営報告がありました。

内科の患者数は1万387人で前年度より3868人の増加、外科は週2回の午後診療となったことで患者数は1281人で前年度より7955人の大幅な減少となり、月2回診療の皮膚科では患者数863人で前年度より21人の増となりました。

次に収支の状況は、事業収益が2億2240万円、事業費が2億8098万円、経営損失は5858万円となり、年度計画の損失見込みからは500万円ほどの改善が見られました。今後も業務改善によるコスト削減に努力しつつ、現行の診療体制の維持と

近隣医療機関との連携強化を推進することでありました。

□メガソーラー建設候補地の整備について

東日本大震災以降、太陽光発電は新エネルギーとして注目され、道内では大企業によるメガソーラーの建設計画が各地で進められており、建設候補地の照会依頼が煩雑化する中、道庁を窓口企業対応すべく遊休地などの調査が実施され、本町では旧富丘牧野跡地と旧知来尚和牧野跡地、旧若佐小学校跡地の3カ所を候補地としておりました。

情報提供を受けた各企業とも、2牧野跡地は傾斜地であり、高圧送電線まで遠距離であることなど不適合と判断され、旧若佐小学校跡地でのメガソーラー施設建設に向け用地を借用したい旨管内企業から要請があり、このたび候補地周辺の用地整備に係る補正予算を計上するものです。

北電との計画合意後の明年4月以降には出力1000、1500キロワット規模の施設建設工事が着工される予定であります。